２０１８年
7月号
NO.0071

カトリック笹丘教会
教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「神のいつくしみをさらに生き、広めよう！」

豪雨被災者と共に

主任司祭　遠山満

昨年７月に起こった北部九州水害とほぼ同時期に、本年、広範囲に亘る大きな水害が起こりました。この水害で、この世を旅立たねばならなかった方達には、永遠の安息が、暑い中、復興の為、労苦しておられる方達には、物心両面に亘る必要な援助が与えられますよう、お祈り申し上げます。

日本に住む私達が、テロや内戦による国土の荒廃を体験することは、ほとんどありませんが、その代わりに天災によるそれを、私達は、近年毎年のように経験しています。私も、一昨年熊本で地震が起こった後のお盆休み、帰省の為、夜間国道三号線を車で走っていた時、国道沿いのレストランや商店の灯りが消え、町が廃れているのを目の当たりにしました。その時、寂しさがこみ上げて来ると共に、諸行無常、つまり、この世のもの全ては、生じては滅んでいくものなのだと思いました。ただ、そのように達観しても、それによって心は満たされません。天災によって国土が荒廃していくように思える時、それをどのように受け止めれば良いのか、常に神様に尋ねる必要があるかと思います。

ところで、先週一週間のミサの第一朗読で、ホセアの預言が読まれました。ホセアは、バビロン捕囚の前、北王国イスラエルの政治的混迷の時代に活動した預言者です。この預言書の中の次の言葉は印象的です。「それ故、見よ、私は彼女を誘い、荒れ野に導いてその心に語る。ー中略ー彼女はその地で若い時のように、エジプトの地から上って来た時のように、答えるであろう」（同書２章16～17節）。文中「彼女」とされているのは、イスラエルで、イスラエルがエジプトの奴隷状態から解放されて、シナイの荒れ野にいた時代を、ホセアは主との新婚時代と考えています。事実、イスラエルは、シナイの荒れ野で、主と契約を結び、主を知りました。捕囚は、エジプトへの返送、捕囚からの帰還は、もう一度荒れ野を通って約束の地に向かう第二の旅と考えています。イスラエルの民がもう一度荒れ野を体験するのは、主との新婚時代を思い出すように、主が準備して下さった事と捉えています。

今回の豪雨災害によって、私達は荒れ野を体験しています。荒れ野の旅は苦しい旅です。何も慰めがないからです。けれども、ホセアによれば、荒れ野は、主なる神と出会える場です。今回の災害が、神様をまだ知らない日本の兄弟姉妹にとって、主なる神様を深く知る機会となりますよう、皆で祈って参りましょう。

～～ 信仰のルーツコーナー ～～

故米田博一氏

＊今回は故米田博一氏のご家族のご協力をいただきました＊

我が父　米田博一の信仰の歩みを辿る

米田博正

・はじめに

この度、昨年１２月２１日に逝去いたしました、父、米田博一の信仰の歩みを記す機会をいただきました。はじめに、少し長くなりますが、父の郷里である奈良教会の信仰の曙の時期について書かせていただきました。また１９３４年（昭和９年）に生まれ、２０１７年（平成２９年）に亡くなるまでの父の歩みは、昭和から平成にかけての日本の教会の歩みと重なる部分が多いと考え、少し時代背景的なことも書かせていただきました。

拙文ですが、神から命を与えられ、キリストに招かれた一人の罪人であり、弱さゆえに過ちを犯しつつもキリストに救いを求め続けた、神から愛された父の信仰の旅路を、皆様とお分かちできれば幸いです。

１　奈良教会とビリオン神父

１８７３年、明治政府はキリシタン禁令の高札を撤廃し、日本でも信教の自由が保障されるようになりました。その後、父の郷里の奈良でも、１８８０年頃よりパリミッション会により開拓宣教がなされるようになっていきました。

わたしの父方の祖父、米田忠一と祖母、米田ゆきは、福音宣教が始まったばかりの奈良で生活を営んでいました。祖父、忠一は奈良出身でしたが、１０代の頃、マリア会が大阪に設立した明星商業（現在の大阪明星中高）の一期生として学び、初めてカトリック教育にふれます。しかしまだ、この時は洗礼を受けることはありませんでした。その後、忠一とゆきが出会い、結婚の恵みにあずかります。

そして１９２５年、当時はまだ仮聖堂であった奈良教会に、パリミッション会のビリオン神父様が着任されます。神父様は明治、大正、昭和初期に西日本を中心に開拓宣教され、最晩年、８２歳の時に奈良に来られました。神父様はご高齢でしたが、奈良公園などで精力的に宣教され、祖母ゆきも神父様のお話しをよく聴きにいっていたそうです。

１９３１年のある時、祖父母が洗礼へと導かれる出来事がおこりました。祖父母の幼い娘（寿美、当時７歳、わたしの伯母にあたる）が大病を患い夭逝してしまいました。この時、ビリオン神父様が幼い伯母を献身的に看病され、臨終の間際に洗礼を授けられたそうです。神父様の深い信仰と愛にふれた祖母は「これこそ本当の宗教に違いない！」と確信し、祖母と夫である忠一と長男、長女が受洗に至ります。その後、祖母は奈良教会でビリオン神父様のまかないとして、１９３２年４月１日の神父様の帰天前日まで仕えました。

わたしの父、博一はこのようなカトリックの家庭で９人きょうだいの次男として、１９３４年４月３０日、生を受けました。父、博一は生後まもなく、パリミッション会のメルシエ神父様より幼児洗礼を受けます。洗礼名は洗礼者ヨハネでした。【次回につづく】

カトリック笹丘教会　拡大信者会　議事録

日時 ： 2018年7月8日（日） 11:30～12:30

信徒会館ホールにて

† 初めの祈り、アベ・マリアの祈り(記録的大雨の被災者のため)

議　題

1. 教区目標、小教区目標の確認・・・半年経って、どれほど活動できたか振り返ってみましょう。

2018年目標　≪神のいつくしみをさらに生き、広めよう！≫

※一人の信徒として、自分なりに具体的目標を立て取り組む。

※小教区共同体として、役員会、拡大信者会からの呼びかけに応え取り組む。

2. ミサの時間の変更について

主任司祭より

現在、日曜日の主日ミサは 8 時と 10 時で 2 時間の空きがあるが、教区内で日曜日の主日ミサが 2 回あるところは、2 時間半か 3 時間空いている。 活動や準備のためにもう少し時間が欲しい。10 時ミサの時間まで有効利用する考え。 以前行っていた「大人のための日曜学校」を再開することも検討中。

具体的には、8 時ミサを、7 時半に変更したい。

〔1〕 7月22日まで意見を求めて決定する。

現在、3回の主日ミサ後に説明中。ご意見箱も設置。

〔2〕 変更する場合の実施日はある程度の周知期間を設定する。

8月いっぱいを周知期間として、9月2日より実施。

3. 班会の実施について・・・・班内の交流を活性化するため。

〔1〕 班長、副班長の確認と選出

〔2〕 個別の緊急連絡方法の確認・・・・名簿の構成が変わっている班があるので、班長が班内の人が変わっていることに気づいていない班があるかもしれない。

〔3〕 実施方法の検討

9月のコーヒー・コーナー(9日)で、全部の班を対象に、1回集まってみる。

個別の連絡方法の確認をする。班会のやり方、班長・副班長の選び方を確認。

班長・副班長が決まっていない班には、役員が入る。

4. 聖アウグスチノ祭・・・・8月25日(土)18時ミサ後

・司教様を招待してはどうか。ミサも共同司式していただく。

・戸外でやってはどうか？→検討する。

裏につづく

議事録のつづき

5. その他

①電力小売業者の変更について

主任司祭より　ある業者から勧誘があり、8、9千円（1ヶ月？につき）抑えられるとのこと。

意見として　・メリット、デメリット等が想定されるので

→有志数人と（財務委員も含め？）、検討する。

②各種営繕、備品についての提案あり。

・聖堂のエアコンフィルター(室外機の中)の清掃→業者に依頼を検討する。

・イヤホンのレシーバー、マイクの修理、更新。→必要なものをリストアップする。

③外に置いてある灰皿代わりの赤い缶について

→赤い缶は撤去し、喫煙場所は変えず、マイ灰皿を使ってもらう。（8月以降）

幼稚園バスの運転手さんには、園長先生から伝えてもらう。

④大雨で、敷地内側溝の水があふれていたので雨水、汚水の配水管の確認をする。

† 終わりの祈り

お知らせコーナー

班会を開きましょう！！

＊＊＊　9月9日コーヒーコーナーにて＊＊＊

神のいつくしみをさらに生き、広めよう！！の目標に向けた取り組みです。
来る9月9日（日）の10時のミサ後のコーヒーコーナ開催時に、班会を実施します。
教会ニュース6月号の「お住まいによる班編成」の記事でご自分の班を確認して、
できる限りご参加くださいますようお願いいたします。

編集後記

7月初旬から大雨が降り続いた。最大級の警告が出た。しかし福岡市は、数年前豪雨で被害を受けたところのほとんどは今回影響を受けなかった。今回被害を受けた地域には申し訳ないが、この改善に驚いた。前回被害を受けたときよりも激しい雨に対応できたのだから。そして、その雨は更に被害が大きくなる前に小降りになった。また、助かったと思った。何度も発信される福岡市からの防災メール。一生懸命市民を守ろうとする職員の姿勢が目に浮かぶ。このような気候をお与えくださった神さま。無事に過ごせている私達は何をすればよいのでしょうか？

ー主よ、あなたの道をわたしに示し、あなたに従う道を教えてください（詩篇25.4)ー

（J.N）